

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102115		
法人名	医療法人 祐基会		
事業所名	グループホーム六花苑		
所在地	熊本市中央区帯山4丁目6-31		
自己評価作成日	平成27年12月12日	評価結果市町村受理日	平成28年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①同法人の医療機関(帯山中央病院)が隣接している為、救急時や病状悪化時等、早急な対応で安心できます。
- ②地域の中のイベント等に参加し、活性化が図れます。
- ③認知症の進行を遅らせたり予防する効果が注目されている「臨床美術」を継続的に取り入れ作品の制作の楽しみ、達成感を感じておられます。
- ④夏の日よけに作ったゴーヤやキュウリのカーテンで、ぬか漬けにしたり、干し柿、行事ごとの料理や、日曜大工等も取り入れ、家庭的な雰囲気作りを心がけています。
- ⑤認知症対応型通所(共用型)も実施しており、体操やレクリエーションを活発に実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット6名でスタートした六花苑であるが、昨年12床の増設が決定したことで、4月には3名の入居者を迎え1ユニット9名となり、10月には新たにユニットが加わり慌ただしい中に賑やかな再スタートを切っている。地域医療の先駆けとして同地で開業する法人はその精神である理念が医療用語ではなく『幸せのおもてなし』という表現にもあるようにホームもその思いを継承し、入居者の地域での暮らしを支えている。ホーム周辺の散策や地元での買い物、行事参加を通じ人々と繋がり、『臨床美術』の継続は完成の喜びや自信となり入居者に張りのある日常をもたらしている。法人との医療連携を確立し、地域防災の要である総合訓練への参加、職員による消防署での体験研修など緊急時対応にも全力で取り組んでいる。施設長が言う、つい後回しになりかねない自立された入居者こそ声掛けや会話の必要性を感じ、意思表示が困難な方の思いをどうやって見極めるかを全職員で追及するホームの新たな門出を応援したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フローアーの見やすい所に掲示し、理念の意識づけをしている。年頭に理念に基づいた個人目標を説明し、ケアに生かせるようにしている。	法人理念『幸せのおもてなし』を主軸に、グループホーム独自の三項目からなる理念を掲げている。個々の尊厳や家族との結びつき、地域社会の一員としての誇りなどを謳った内容は、入職と同時に新しい職員に伝えられ、ケアの規範として各職員が年目標を立てるなど、実践へ向けた努力をしている。	開所当時からの理念であり、入居者6人からスタートし現在、2ユニット18名と環境が変化した中で、内容について検討することも必要と思われる。また、理念の掲示場所(談話室)については、目に付く所に移動することで来訪者への啓発にも繋がると考える。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買い物、理美容は地域の商店を利用している。回覧板により情報を得て、校区文化祭に利用者の作品を出展し、防災訓練にも利用者と共に参加している。	入居者や職員は区費の支払いや回覧板のやり取り、一斉清掃などを通じ近隣者と繋がり、行きつけの商店で買い物をしながら地域の一員として生活している。校区の文化祭ではコーナーを設けてもらい、年2回の地域の防災訓練には入居者と共に参加している。また、中学生のナイストライの受け入れなどにも積極的に動いており、地域交流の機会は徐々に増えてきている。	離設などの緊急時に地元代表者や住民の協力が大きな支えとなるなど、日頃の交流が功を奏しており、今後も継続した取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、当事業所の事例を元に、地域の方々に、認知症についての知識や対応の助言をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の状態報告、活動内容を写真等を使って説明し、利用者の家族、地域の方々から要望や助言をいただき、サービスの向上に努めている。	2ヶ月ごとの定期開催が実現しており、包括職員や地域・家族代表、法人関係者が参加している。参加者にホームの現状を伝えながら意見や提案を受けており、その中に入居者の事故報告や職員異動などについても詳細に紹介し、離設などの緊急時に関する地域連携について様々な助言を得ている。また、聞きなれない福祉の専門用語についてわかりやすく説明したり、参加家族に入居後の率直な気持ちを語ってもらうなど内容の工夫が見られる。	職員は毎月の便りで全家族へ会議への参加を呼びかけ、ホーム関係者以外には直接案内文を届けている。今後は現参加者の他にもテーマごとに関係者に参加を打診したり、会議の前にホーム内を見てもらうことで会話の内容が更に理解されるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて地域包括センターの職員の参加で意見交換をしている。市高齢福祉課からのアンケートに協力している。また、毎月、介護相談支援員の訪問にて意見交換を行いケアに反映させている。	地域包括職員の運営推進会議への参加時には互いの情報を交換し、会議の中でキャラバンメイトの講師養成なども受けている。更に包括主催の研修には施設長が参加している。行政が主導する介護支援相談員の来所時に、入居者の声を代弁してもらいながらケアにつなぎ、相談員の会合に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年勉強会に参加し、ミーティング時、勉強会を行い意識づけしている。現在、玄関の施錠はしていないが、内ドアには(非常口等)センサーを設置し、フロアに職員が一人の時と時間を限定して安全の為施錠をしている。また車椅子は移動手段の目的で生活スタイルの保持に努めている。	身体拘束の外部研修に参加した職員の資料をもとに、ホームで勉強会を開き内容を共有したり、朝のミーティングや月の会議の中では特に言葉遣いについて互いの気づきや注意点を話し合い、ケアに反映させている。車いすもあくまで移動の手段として使用し、椅子への移乗を統一している。職員が手薄になる時間帯によっては玄関内ドアのセンサーを使用している。	玄関内ドアのセンサーについては、今後も家族への説明や理解を求めながら、最小限の使用が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、ミーティング時に勉強会を行い意識の統一を図っている。また、利用者の入浴の際に、全身状態の観察を行い、常に状態変化に注意している。また、職員がストレスを溜めこめないよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があるとみなされる場合は、制度の活用が出来るよう話し合い、橋渡しが出来ようご家族等、周知を図っていけるよう心掛けている。現在利用されている方からはプラン説明や面会時に助言を頂き、学ぶ姿勢を心掛け、関係性を深め、支援が円滑にいくよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をかけ、説明し、不安や疑問を解消させてから契約を取り交わしている。介護保険改正等時には「重要事項説明書」にその都度説明しご理解を得ている。利用者が重度化した時の内容についても説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に「ご意見箱」を設置している。介護相談支援員の訪問時に利用者の意見を確認し運営の参考にしている。家族の面会時に直接、意見や要望等をお聞きしている。毎月、家族へのお便りを郵送し、その中に一ヶ月の行事やそれに関する写真を入れ、ホームの様子をお知らせしている。	職員は入居者との普段の関りの中から要望を引き出し、毎朝の申し送りや会議の中で話題にしながら共有している。支援相談員の聞き取りも入居者の遠慮のない意見としてケアに反映させている。家族の来所時には入居者の近況を伝え、担当者会議で更に現状を共有しながら必要な支援を説明し、忌憚のない意見を求めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や日常の介護の中で、職員の意見や提案を聴き確認し、法人の連携会議や介護事業部会議棟で意見等出している。	施設長はユニットの増設に伴い、職員が増えたことでまずは働きやすい職場環境を整え風通しの良いホーム運営を進めている。各行事担当となった職員は自身の特技を活かしながら企画し、入居者のホーム生活に彩りをもたらしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標達成に応じた人事課を行い、職員のモチベーションにつなげている。労働時間も守られている。超過勤務の場合は、事前に管理者からの指示もしくは本人の申告により超過勤務手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に、外部研修の報告を通して、他の職員への情報提供、共有を図っている。資格取得への推奨によりケアの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会熊本支部の連絡会に参加し、意見交換や勉強会に参加する事でサービスの質の向上を図っている。地域包括支援センター主催の事例検討会で、地域住民との交流会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の関係者やご家族に情報を得たり、ご本人に面談し、ご本人の表情や会話の中で、気持ちを受け止め、不安に感じられて居ることを知り、出来るだけ寄り添い、安心して生活を送る事が出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンを中心にご家族、後見人の方の話を傾聴し、出来るだけ相手の立場で考え、思いを受け止め、方向性を調整し、ご本人を共に支える事が出来るように関係づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や要望をもとに、主治医の意見も取り入れ、今ご本人やご家族にとって、何が必要なのかを見極め、面会時や電話等で、その都度話し合い、調整を行い納得が得られ、安心して支援が受けられる様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、ご本人の残存機能に働きかけるも、ご本人を尊重し、援助が必要な場面を見極めて関わり、関わりの中で、ご本人の凄いとこに気づき、学び、喜怒哀楽を共にし、互いに支え合える関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を大切にしながら、些細な事でも相談し合え、共に解決に向けて取り組み、共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの美容院や友人の来所等関係の継続や馴染みの場所での買い物等、出かける場所を積極的に作り、生き生きと生活が継続出来るように、社会との関わりの支援に努めている。	入居者は職員と共に馴染みの商店で買い物を楽しみ、行きつけの美容室を引き続き利用するなど入居前の生活が継続できる環境にある。また、生活歴から生まれ育った地の懐かしい食材(干物)を食事の際に提供し、らっきよやぬか漬けなど昔ながらの保存食作りが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係や理解に努め利用者同士で些細な助け合いや支え合った生活が出来るように、場面作りに努め、その人の今にあった関係づくりを心掛け、共に暮らしを楽しめるように、心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の事情で、退居されサービスの利用が終了した場合も、入院先を再三尋ねたり、ご家族や相手先に、入居中の状況、習慣、好みや気づき、ケアの工夫等の情報を提供し、相談に応じ安心して継続した支援が行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの思いや意向について、否定的な言葉は使わず、ゆっくり心を寄せ、思いを把握するように心がけ、混乱や把握が困難な場合は、時間をかけ寄り添い困難な場合には、ミーティングを重ね問題解決に努め取り組んでいる。	入居者がホームでどう暮らし何をしたいかなど、日常会話の中からゆっくり聞き取りプランに繋いでいる。中には表現困難な方もおられ、職員は普段の行動や表情、ボディタッチから思いを推察したり、家族の聞き取りから、本人のこれまでの暮らしぶりとしり合わせながら支援するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の馴染みの暮らしや、大切にされている事、援助を受けられる際のご本人の嫌な行為や言葉かけ等、生活歴やフェイスシート、ご本人に関わって来られた方からの情報等を把握し、戸惑いが無く生活が継続出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活のリズムを把握し、日々の生活の中で、その日の状況に合わせて、見守りと関わり方の見極めを心掛けスタッフ間で共有し、支援するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で気づきを大切に申し送り時に意見交換をし、スタッフ間で共有し、介護記録や支援経過等情報を得て、定期、必要時には随時アセスメント、モニタリングを行い介護計画に反映させ作成するよう心掛けている。	入居者を職員の担当制とし、毎月のケアミーティングで個々の情報を出し合いプラン立案に繋いでいる。定期的な評価の中で自立し手を取られない方こそ、日頃の声掛けの際肩に手をやったり、目を合わせて会話することなどを申し合わせている。短期記憶のない方が職員の名前を覚えようとされたり、日めくりカレンダーで日にちの確認をされる場面を支え、自信の回復に繋ぐなど個別に必要な内容を網羅し、家族にわかりやすく説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の担当者を中心に日々の実践の中で気づきやケアの工夫等、ミーティングや介護記録に記入し情報の共有に努め介護計画に活かし、必要時には、介護計画の見直しを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりのニーズに合わせて、ボランティアの方の導入やご家族の協力を得たり、その時のニーズに応じて柔軟な対応で支援が出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加、近所での買い物やボランティアの訪問等、馴染みの関わりのおかげで、生き生きと、安全に安心した生活が継続出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を尊重し、隣接した馴染みの病院での定期受診、状態変化時の対応、又、訪問歯科、婦人科、整形外科皮膚科等ご家族の同意を得て、適切な受診を心掛け早期対応の支援を心掛けている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を確認し、現在隣接する法人医療機関での月1回の受診を支援している。主治医とは常に連携を図り、専門医の受診など適切な医療に繋がっている。また、休日前で気になることがあれば早めの受診を行っている。職員はバイタルチェックや表情・動作などにより異常の早期発見に努めている。日頃の様子や受診結果については、面会時や電話などにより家族との共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェック、状態観察、月1回の訪問受診、状態変化時等医療連携で円滑な対応を心掛け健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して医療が受けられるように、日々の暮らし方や大切にされていること等、情報提供を行い、ご本人、ご家族の不安な気持ちに寄り添い、安心されるように、隣接の病院の場合は、入院先を度々訪ね、ご家族との情報交換に努め、医療関係者、ご家族と協議を重ね、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは今のところ行っていないが、入所時重度化した場合は隣接した協力病院への入院の説明は行っている。重度化、終末期に向けた方針についてはその都度(必要時)、担当者会議を開催しご家族との支援のズレがないか確認し、安心した生活が継続出来るように取り組んでいる。	入居時に重度化の対応、終末期ケア指針、事前指定書をもとにホームの取り組みを説明している。また、実際そのような状況になった場合、同様の内容で本人・家族の意向を確認しながら、今後の対応を検討している。これまでホームでの看取り支援はないが、ギリギリまで出来る対応に努め、最終を隣接の病院で迎えられた方がおられる。	家庭的な環境で手作りの温もりを活かしたホーム運営に努めており、今後ともご縁のあった入居者や家族にとって、最良の時間を提供していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応が出来るように、マニュアルを設置している。月1回のユニット会議の際、ヒヤリハットや事故報告書の振り返りで介護技術の習得やレベルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で年2回(前回は夜間の実施)、地域でも年2回の訓練に利用者の方と参加し、地域での協力体制が築かれるよう努めている。	法人全体で昼・夜を想定し火災を中心にした避難訓練を行っている。地域全体が災害対策に力を入れており、訓練には入居者も一緒に参加し、ホームを知ってもらうことや、協力体制のきっかけとしている。備蓄については即席麺や水などの食備蓄を行っている。	2階にユニットが増設したことから、今後は避難誘導や安全管理の更なる強化が課題であるとしている。運営推進会議の中に訓練を組み入れるなども有効かと思われる。また、夜勤帯職員がホーム周りやガスの元栓などのチェックを行っているが、今後はコンセントの埃などチェック項目の追加に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬った接し方を心掛けている。間違った声掛けや、対応の際は、スタッフ間で指摘仕合、常に施設長の指導の下、お一人おひとりの生活歴を把握し、尊厳とプライバシーが守られるように日々努めている。	入居者への言葉かけや対応は失礼の無いよう心を配っており、何か気づきがあれば施設長や職員間でも注意し合っている。呼称は苗字にさん付けとし、同性介助での対応に努めている。また、排泄時の誘導や排泄用品を確認する際も、尊厳やプライバシーを損ねることがないように行っている。	面会簿の記入については、個人情報の点から個別記入などを検討されることが必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように場面作りに心掛け、ご本人の出来る事、出来なくなって来ていることや、やりたくない事を表情や言葉の中で見極め、出来るだけ、ご本人の今の思いに寄り添い支援できるようにスタッフ全員心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活のリズムを考慮しながらも、職員側の都合やペースに合わせた支援ではなく、お一人おひとりのペースに添い、その日の状態に合わせた柔軟な暮らしを心掛け支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何度も着替えられたりする方に対しても否定的な言葉かけはせず、ご本人の心地よさと更衣されることにより、表情に生き生きとした笑顔が見られる事を大切にしている。お化粧等もその人らしさを見守り、馴染みの美容室の希望には支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来る事、したくない事をその都度見極め、場面作りで意欲を引き出し、食事の継ぎ分け、後片付け時の茶碗拭き、お盆拭き等利用者の方と一緒に楽しく食事作りや後片付けを行っている。	業者から届く献立や食材を使って、調理専任者や職員が調理している。本人の誕生日には昼食の食材をキャンセルし、好みのメニューと手作りケーキや饅頭などでお祝いしている。食への関わりとしては、野菜作りや食材の下ごしらえ(皮むきやもやしの根切りなど)小鉢のつぎ分けなどできる事を支援している。夏に収穫したきゅうりは、入居者の発案でぬか漬けとなり、「母の味を思い出した！」の言葉が溢れたようである。このおふくろの味は、運営推進会議でも日常生活の紹介としてメンバーにも出され好評だったようである。	季節の手作りケーキは入居者にとっては、何よりのお祝いの品と思われる。その思い出や次回の入居者の楽しみとなるよう資料として『ケーキブック』の作成も一案と思われる。また、検査者の意見や入居者の発せられた一言などを記録として残すことを検討いただきたい。合わせて首に負担のないエプロンの使用方法や、食器を洗う音が食事を急がせたり雰囲気壊すことのないよう配慮いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録の中で、食事、必要に応じては、水分摂取量のチェック、状態等をその日に留まらず把握し、その方が今望まれる物を知り、不足の補いに努め、場合によっては、ご家族の協力や医療面でのサポートの協力を得て支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後お一人お一人に合った声掛けや援助方法で口腔ケアの清潔保持に努めている。ご本人、ご家族の要望がある方や、スタッフの援助を好まれない方には訪問歯科の導入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは、お一人おひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導しトイレでの排泄に努めている。安心した生活ができる為に、布パンツからリハビリパンツに移行する場合もアセスメント、ミーティング、ご本人、ご家族のご意見等で検討し支援している	一人ひとりに応じた声かけや誘導により失敗のない排泄支援に努めている。布下着の継続やリハビリパンツに移行する際も、十分な話し合いを行い本人・家族の意見も尊重し最良の対応を検討している。また、夜間のみテープ式おむつにしたり、足のふらつきなど安全面からポータブルトイレを使用される方もおられる。トイレは清潔を心がけており、手洗い場との距離がある箇所を使用後は、一度スプレー消毒を支援した後洗面所へ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量を把握し、お一人おひとりの好みの飲み物をその都度尋ね、水分補給に努め、日課のメニューに体操を取り入れ、排便困難者には、特にねじり体操等を取り入れたり、起床時に牛乳を勧め、腸の刺激を促し、自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、1回/3日決めていたが、必ずご本人に尋ねその日の状態や時間等、意向を尊重し、拒否が見られる方には、タイミングをみて働きかけたり、スタッフが代わって関わったり、ご本人に合わせ、ゆっくり支援をしている。	週2～3回、午前中を中心に入浴を支援しているが、本人の希望を確認し取り組んでいる。入浴剤の使用や職員との会話により楽しい入浴に繋げており、季節湯(菖蒲・柚子)も取り入れている。また、個別の泡立てネットを準備し、泡洗浄とすることで皮膚に負担がないようにしている。浴室は清潔に管理されており気持ちの良い入浴となっている。	菖蒲やゆず湯は日本ならではの慣習でもあり、今後は『柚子湯週間』など数日にわたり実施することで、全入居者が楽しむことができると思われる。検討いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の状態やご本人の望まれる時間に合わせ安心して就寝出来る様、その方のペースに合わせたケアに努め、お一人おひとりのリズムやその日の状態に合わせて随時休息の促しで体調管理や精神面での安定を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用等、薬剤師との連携をとっており、担当者の服薬把握の徹底でスタッフの意識づけの強化に努めている。飲み忘れ、誤薬を防ぐ対策のマニュアルに添って全スタッフ確認を徹底し取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から、日々の暮らしの中で、楽しみや、張り合いが持てる役割の働きかけを工夫し、ご本人の負担にならない配慮を心掛けている。嗜好品については、出来るだけ、ご希望に添う様努め、細目に気分転換を図り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外でのランチや花見に出かけたり、個々のニーズに添い美容院やスタッフとお茶を買いに出かける事もある。、認知デイの方たちと日光浴や近所のお地藏さん迄散歩に出かけたりしていたが、最近では人員不足で安全が確保出来ない為、頻回には出来ていない。	全員での外出は難しくなっているが、美容院や地域商店(お茶・食料など)への買い物、近隣の散歩など個別や少人数での外出支援に取り組んでいる。また、法人敷地内の庭で桜見をしたり、初詣には人ごみを避けた日程で二回に分けて出かけるなど、季節の外出も企画している。おやつを食べに1~2時間自宅に帰られる方や、外食や買い物外出など家族の協力が得られており、楽しいひと時を過ごし帰苑されている。	今後人員配置が十分に整った際は、体調や希望を確認しながら、外出の機会が展開されていくことに期待したい。また、回転寿司やトンカツ店などの外食支援も楽しまれたようであり、今後もそのような機会を持っていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方は、ご家族と相談しお小遣いを所持され、コンビニ等で好きなものを購入されたりされる事もある。殆んどの方は、ご家族の了解のもと外出先で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	臨床美術でご本人が制作されたハガキで年賀状を出されるよう支援している。電話に関しては、公衆電話から掛けられることがある。取り次ぎ時には、プライバシーに配慮し、ゆっくり話される様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸惑いを無くす為に浴室、トイレ、居室に表示している。季節感を感じて頂く為に、スタッフと一緒に切り絵や貼りえ等共有場所や居室などに掲示している。出来るだけ、音や光等には配慮し居心地良く過せるよう工夫を心掛けている。(大声を出さない、台所での音等)	住宅街の中にあるホームはごく普通の佇まい感であり、室内も家庭的な雰囲気を残しながら、入居者臨床美術作品や職員の特技を活かした切り絵などが掲示されている。また、日めくりカレンダーを準備し、入居者とその日を確認している。玄関先に置かれた公衆電話(使用可)は、今では入居者にとっても懐かしく心とむものである。職員自身の声や対応が居心地を損なうことのないよう意識を持ってケアにあたっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが自由に好きな場所に座って頂き、その日の状態で落ち着かれる場所への促し、場合によっては居室でゆっくり過ごされるよう、その方の落ち着かれる場所を見極め出来るだけストレスを感じられない支援を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が安心して、落ち着いた生活が継続出来るように写真、家具、居室の空間を、馴染みの物、使い慣れたもの等、ご家族と共に相談し、協力し、出来るだけ、混乱されることなく、居心地良く過せる様な居室づくりを心掛けている。	本人にとって居心地良く安心して過ごせるよう、入居時に自宅の部屋で使っているものを持ち込んで欲しいと伝えている。また、ケアマネジャーが家を訪れ質問を受けながら持ち込み品のアドバイスを行ったケースもある。家族の写真や仏壇、テレビなどの持ち込みに加え、職員と一緒に作成した切り絵などの作品も掲示されている。また、ベッドカバーやティッシュケースなど室内はお気に入りのレースで統一された部屋など、本人にとって穏やかな時間を過ごせる環境が作られていた。	肥後六花に加えバラなど居室には花の表札が付けられている。今後も家族の協力を得ながら、居心地のよい居室作りを進めていただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所には手すりが設置してあり、動線も分かりやすく、居室が分からない方には、ご本人がスムーズに行動出来るように工夫してあり、混乱や戸惑いがなく、安全に出来るだけ自立した生活が出来るように工夫して支援している。		